

県勢の概要



平成27年9月

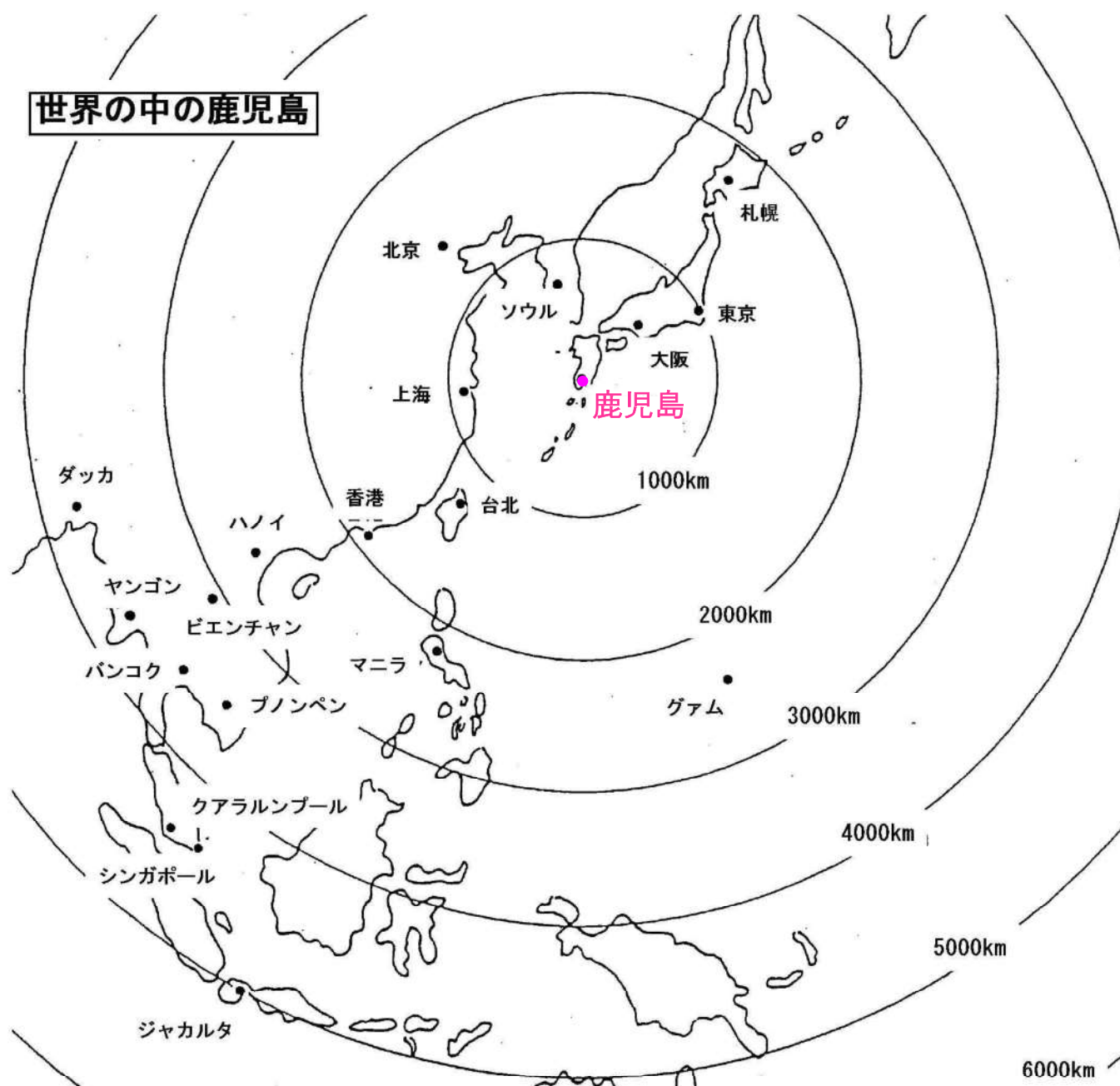
鹿児島県企画課

目次

1	県土	1
2	人口の動向	2
	(1) 人口の推移と将来推計	
	(2) 人口構成の推移等	
	(3) 自然動態と社会動態	
	(4) 社会動態の内容	
3	経済の動向	6
	(1) 経済成長率（実質）の推移	
	(2) 産業構造	
	(3) 雇用	
4	個別産業の動向	8
	(1) 農業	
	(2) 林業	
	(3) 水産業	
	(4) 製造業	
	(5) 商業	
	(6) 観光	
5	国際化の状況	12
	(1) 交流等の状況	
	(2) 外国人登録者数等の推移	
6	発展基盤の整備状況	14
	(1) 高速交通ネットワーク	
	(2) 道路の整備状況等	
7	ボランティアとNPOの状況	16
8	保健医療福祉の状況	17
	(1) 医師数の状況	
	(2) 医療費の動向	
	(3) 要介護（要支援）認定者の状況	
	(4) 福祉・介護分野における人材確保の状況	
9	結婚・出産・子育て	19
	(1) 結婚・出産の状況	
	(2) 子育ての状況	
	(3) 少子化対策に関する県民の意識	
10	教育	22
11	安心・安全	23
	(1) 災害	
	(2) 治安の状況	

1 県土

- ・我が国本土の西南部に位置し，南北約600kmにわたる広大な県土
総面積 9,189km²（全国第10位）
- ・本県総面積の約27%を占める離島
離島面積 2,485km²（全国第1位）
離島人口171千人（全国第1位）



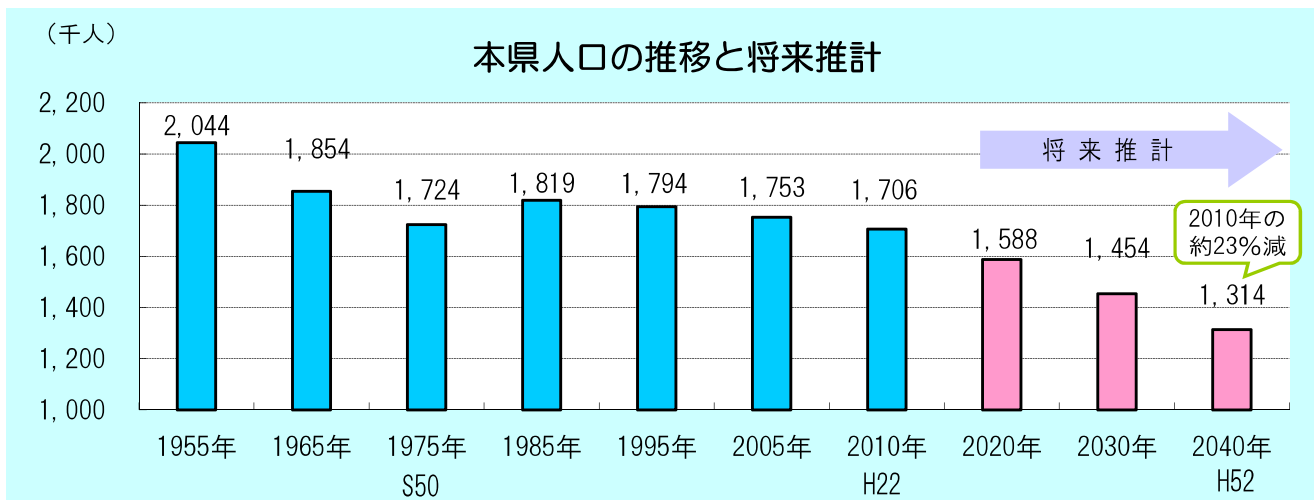
【その他地域特性（H25）】

- ・全国第2位の温暖な気候（年平均気温 18.9℃）
- ・全国第3位の活火山数（11の活火山）

2 人口の動向

(1) 人口の推移と将来推計

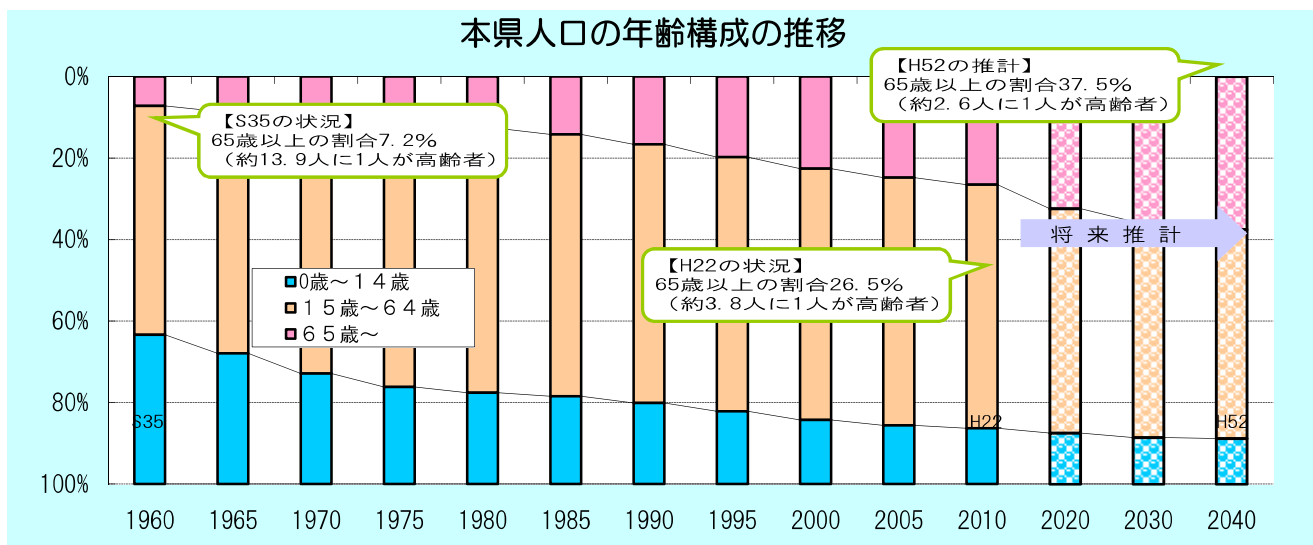
- ・ 本県の人口は1986年から減少傾向にあり，2010年は約171万人
2040年には約23%減の約131万人と推計



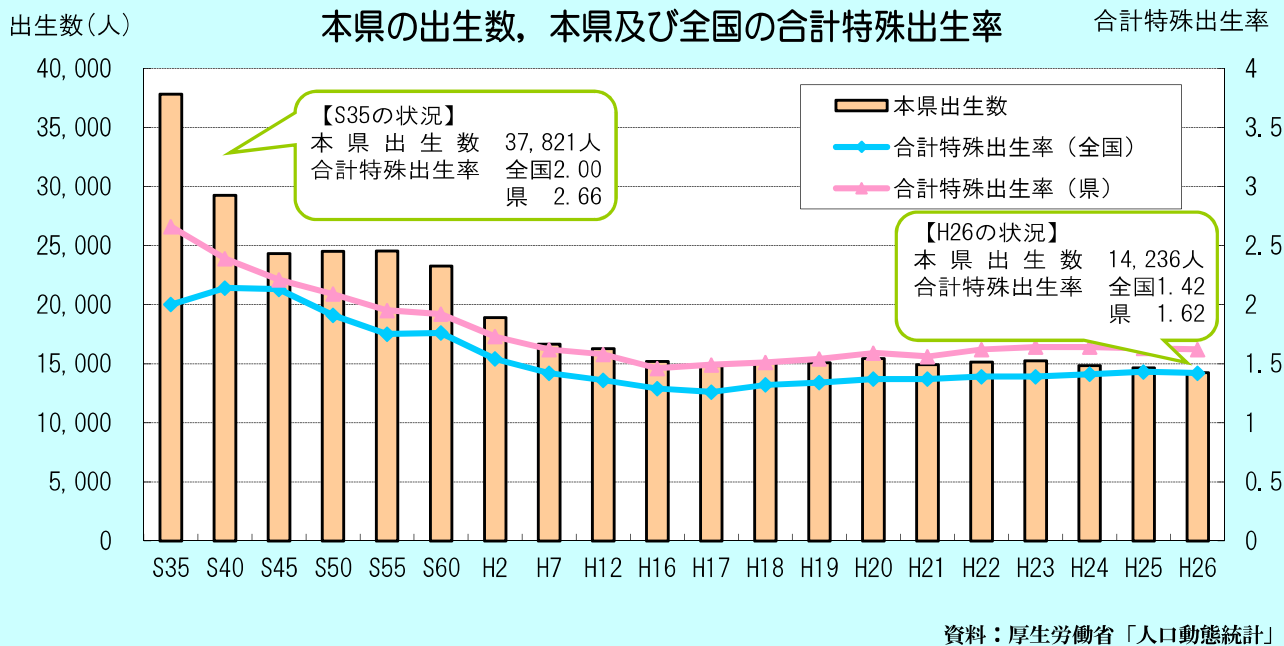
資料：総務省国勢調査, 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

(2) 人口構成の推移等

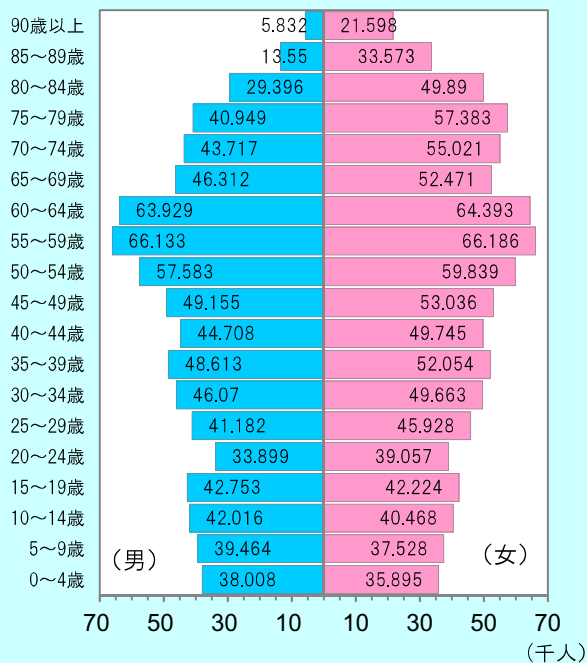
- ・ 本県の65歳以上が総人口に占める割合は年々増加し，2040年には約2.6人に1人が高齢者
- ・ 本県の合計特殊出生率は，全国平均よりやや高い水準が保たれており，年々下降傾向が見られていたが，2005年以降上昇に転じた



資料：総務省国勢調査, 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

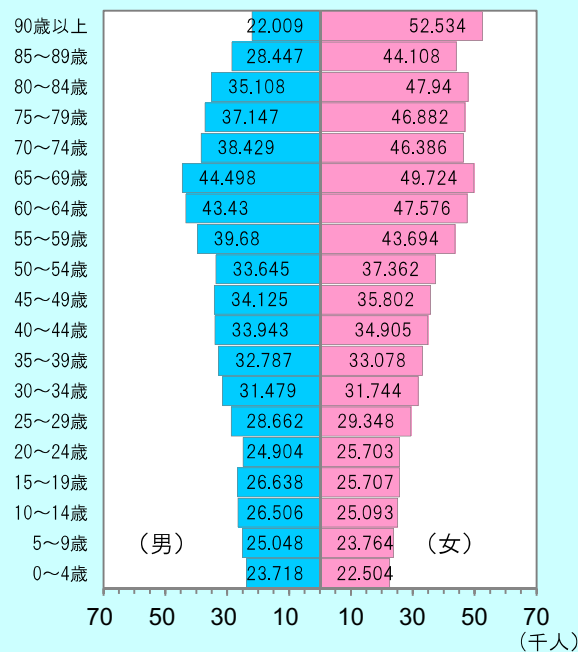


本県人口ピラミッド (2010年)



資料：総務省国勢調査

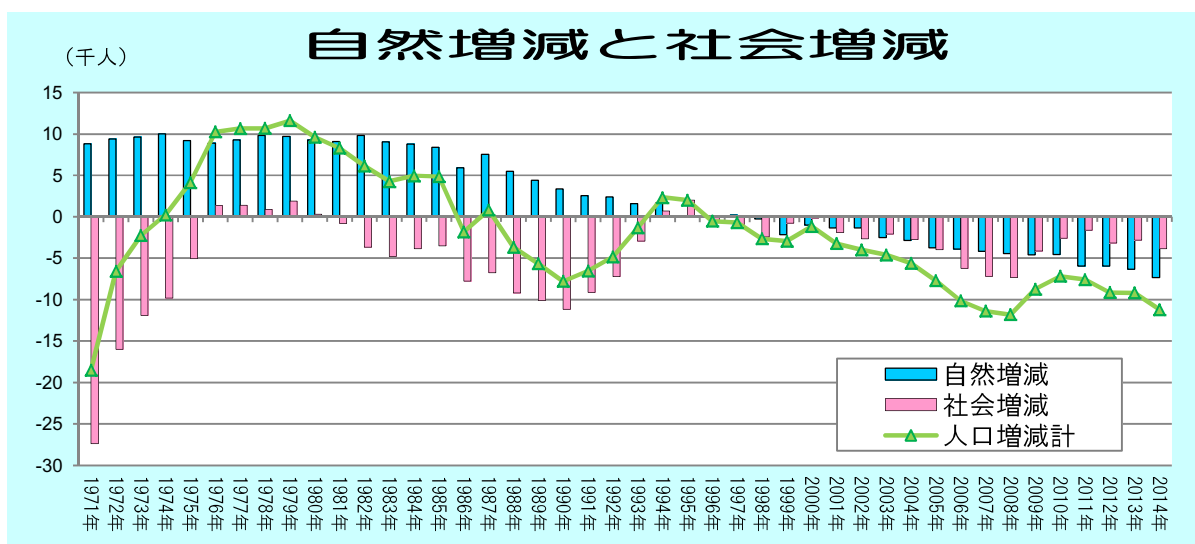
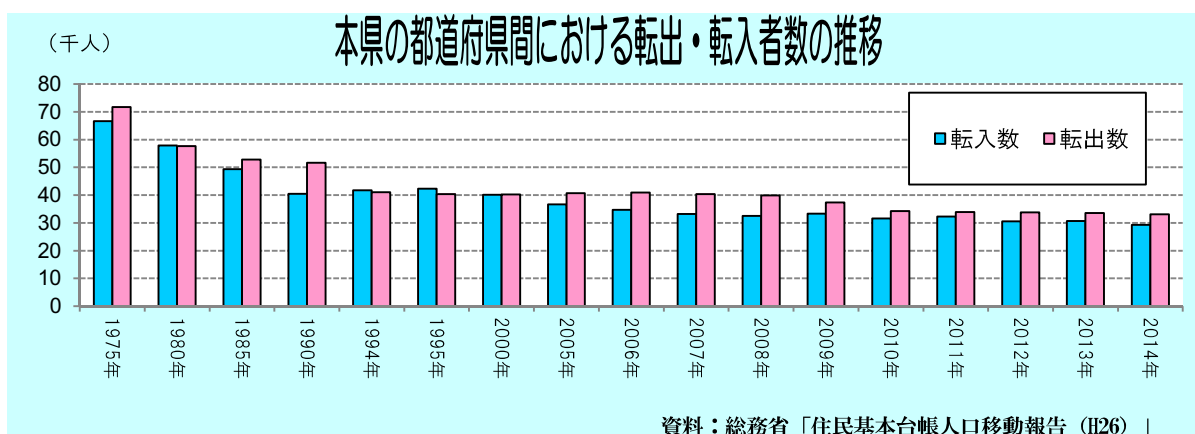
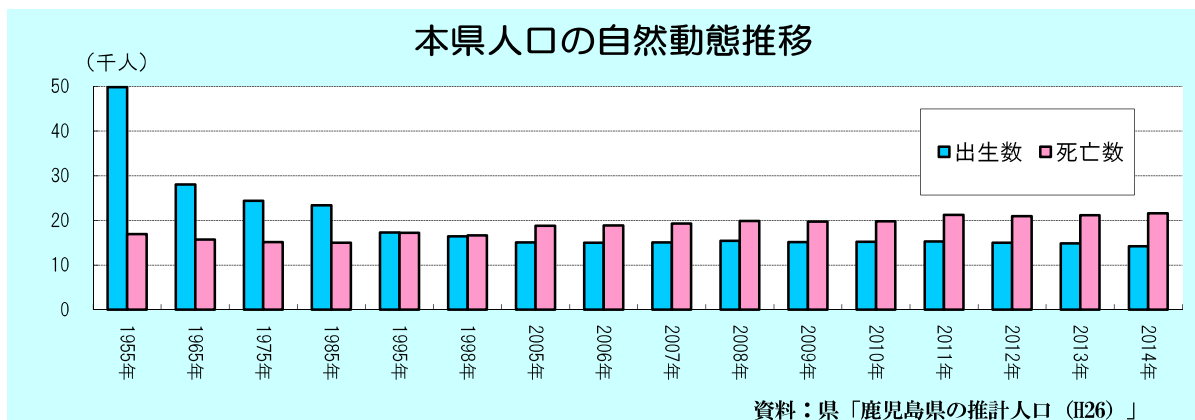
本県人口ピラミッド (2040年)



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 (H25年3月推計)」

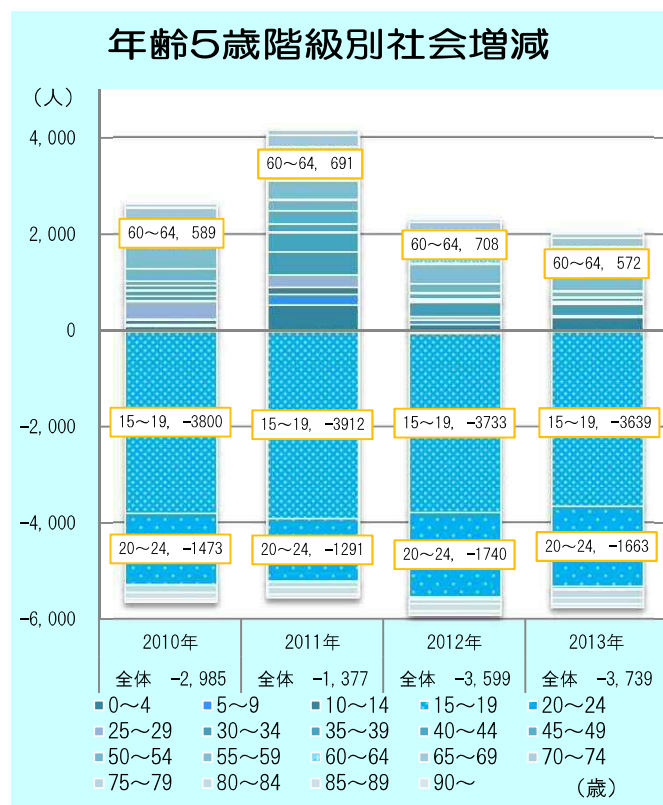
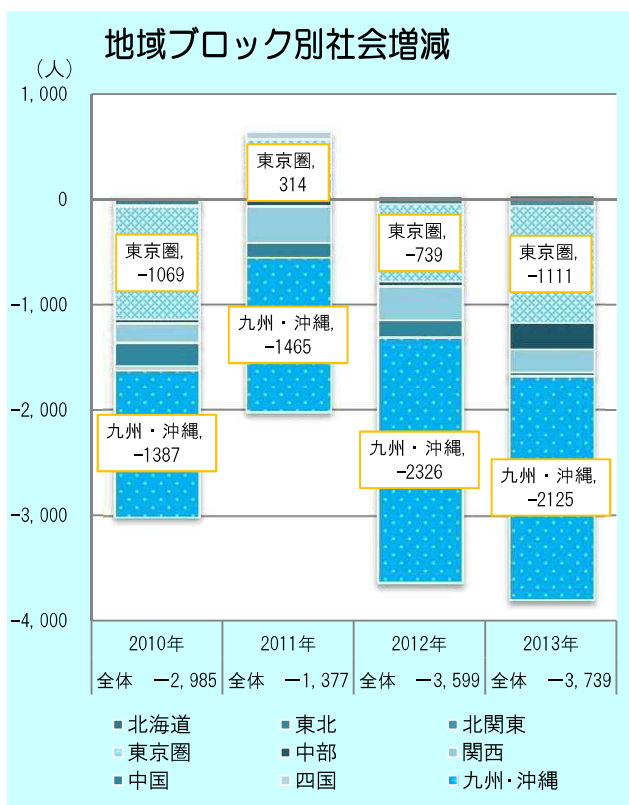
(3) 自然動態と社会動態

- ・ 自然動態は1998年から死亡数が出生数を上回っている
- ・ 社会動態は1994～1995年に転入超過となって以降は、転出超過が続いている
- ・ 1998年以降、本県は自然動態・社会動態ともに減少が続いており、近年では社会減より自然減の方が大きい



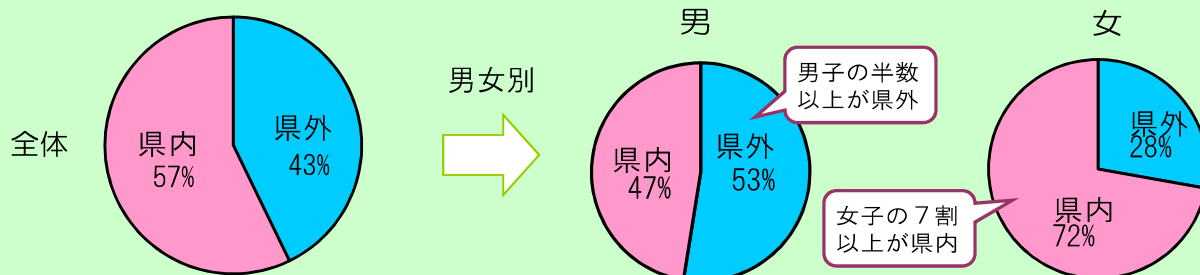
(4) 社会動態の内容

- ・人口移動の状況を地域ブロック別にみると、近年は2011年を除き、ほとんどの地域に対し転出超過
- ・特に九州・沖縄地域，東京圏で転出超過数が多い
- ・人口移動の状況を年齢階層別にみると，15～24歳で毎年5,000人以上の転出超過
- ・高等学校や大学等を卒業後，進学・就職する際に県外に転出する者が多い



【平成26年度 新規高卒者地域別就職状況】

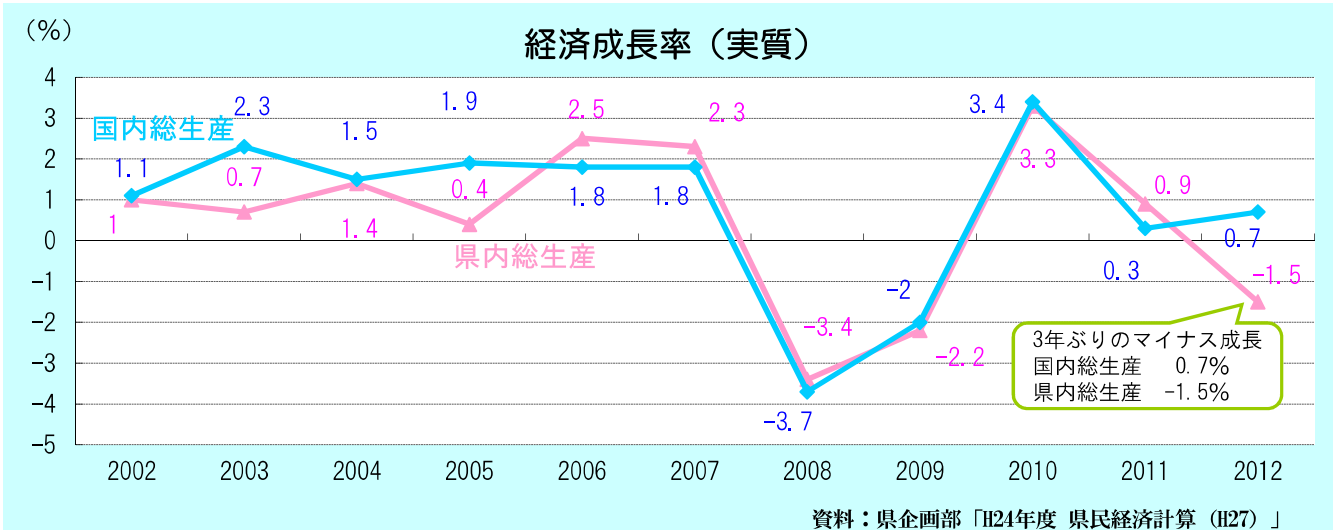
資料：県「学校基本調査（H26年度）」



3 経済の動向

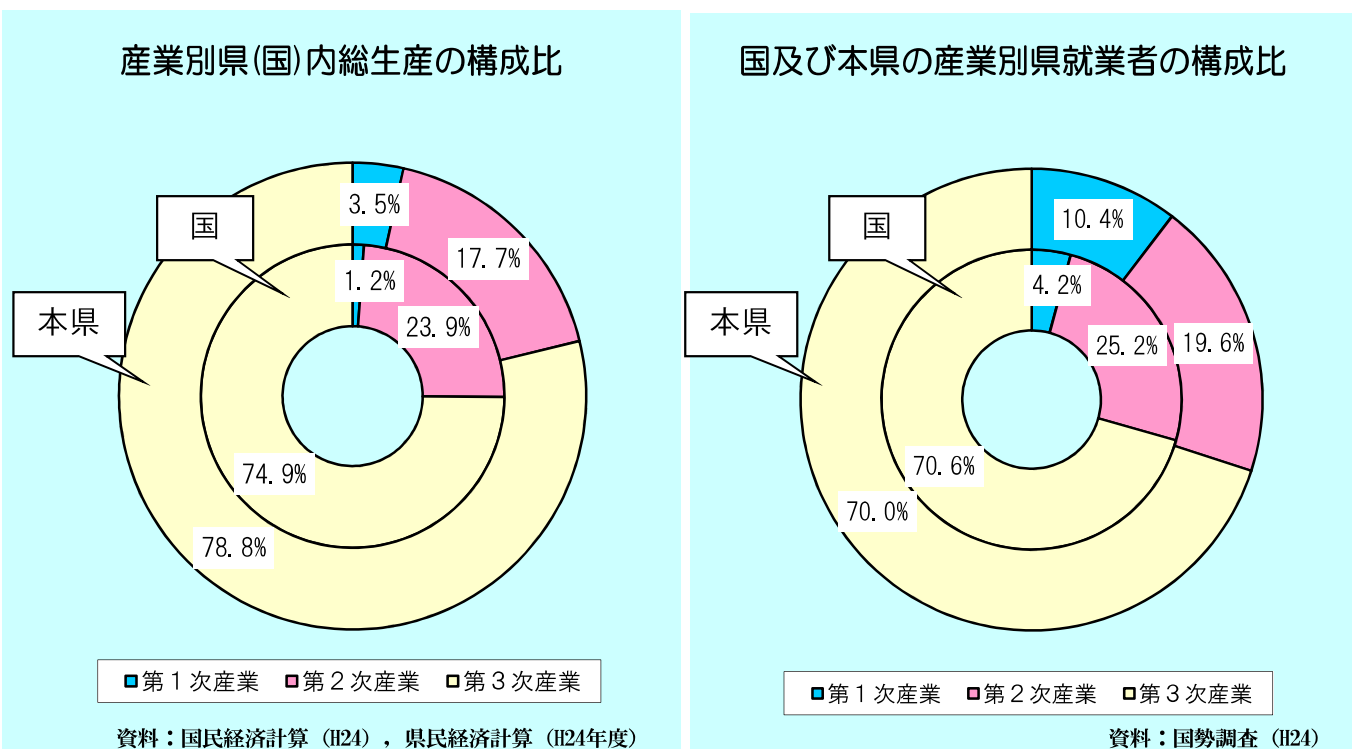
(1) 経済成長率(実質)の推移

- ・ 2012年度(平成24年度)の経済成長率(実質)は $\Delta 1.5\%$ であり、3年ぶりのマイナス成長



(2) 産業構造

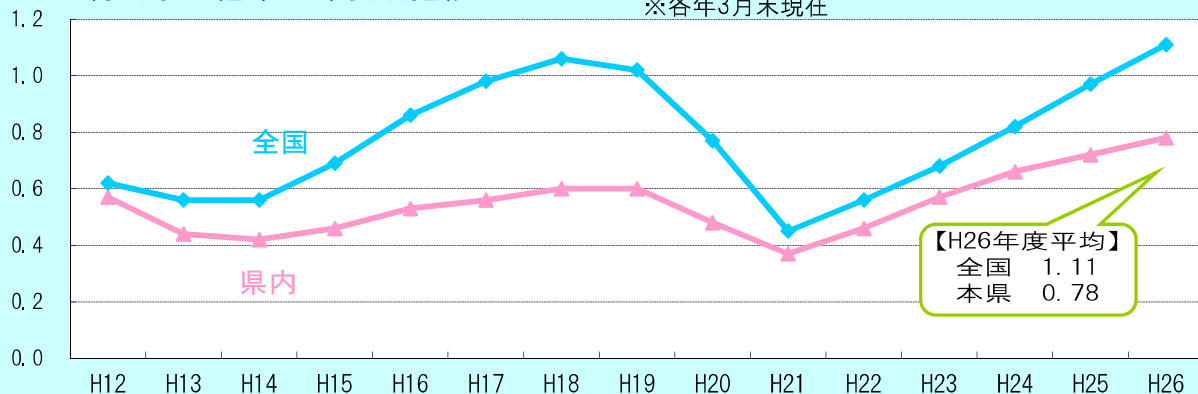
- ・ 産業別県内総生産及び産業別就業者の構成比を国と比較すると、第一次産業の割合が高く、第二次産業の割合が低い



(3) 雇用

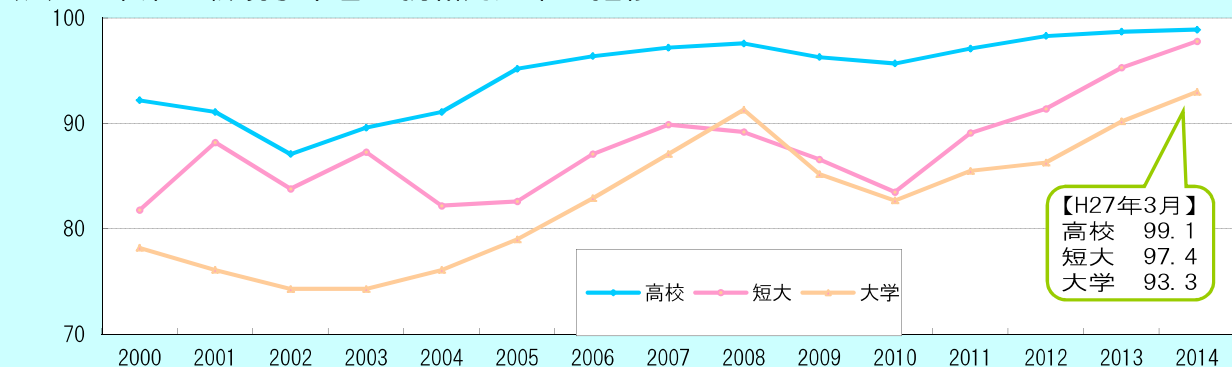
- ・ 本県の有効求人倍率は、全国より低水準で推移しているが、平成19年から21年にかけて景気の急激な悪化に伴い、その差は縮小し、平成22年からは、全国及び本県ともに上昇傾向
- ・ 近年、新規学卒者の就職内定率は、改善傾向にある

(倍) 有効求人倍率の年度別推移



資料：鹿児島労働局「雇用失業情勢（H27.3月分）」

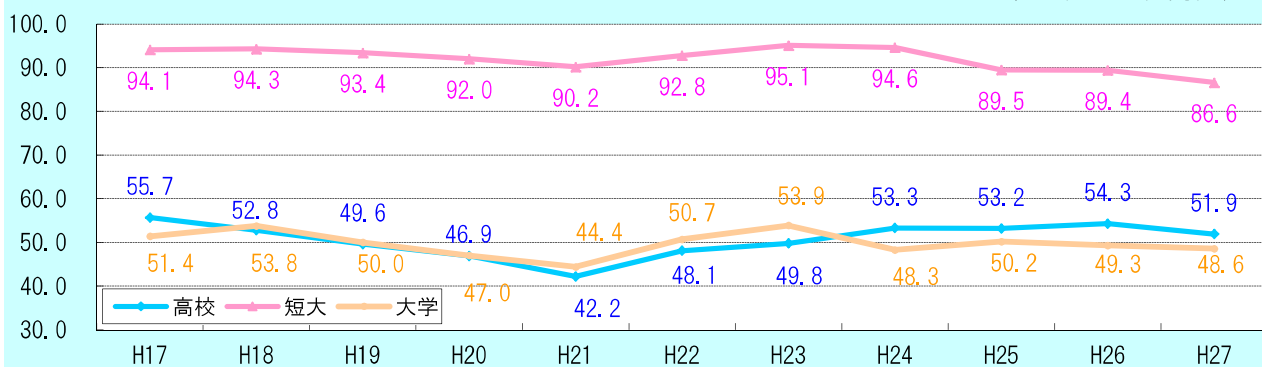
(%) 本県の新規学卒者の就職内定率の推移



資料：鹿児島労働局「新規大学等卒業予定者の就職内定状況，高等学校卒業予定者職業紹介状況（H27）」

(%) 新規学卒者の県内就職割合の推移

(各年3月末現在)

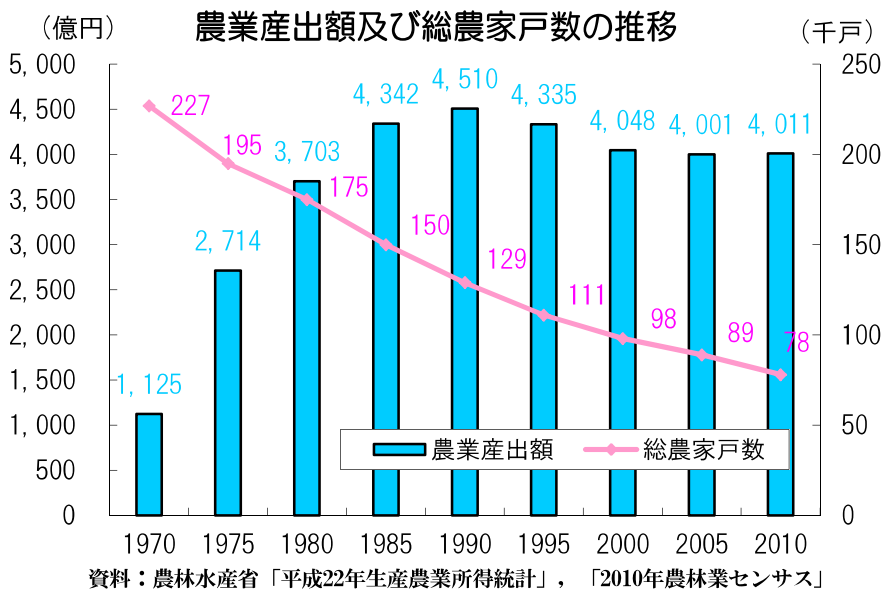


資料：鹿児島労働局「新規学卒者の県内外就職割合」

4 個別産業の動向

(1) 農業

- ・ 農業産出額は2000年頃から横ばいであり、2013年は約4,109億円（全国第4位）
- ・ 総農家戸数は減少傾向にあり、2010年は78,102戸（全国第7位）
- ・ 主要農産物では、肉用牛、豚が全国第1位、ブロイラー、工芸作物（サトウキビ、茶など）が全国第2位、鶏卵が全国第3位の産出額



平成25年 農業産出額

(単位: 億円, %)

	産出額	構成比
全 国	84,668	-
1 北海道	10,705	12.6
2 茨 城	4,356	5.1
3 千 葉	4,141	4.9
4 鹿児島	4,109	4.9
5 熊 本	3,250	3.8

資料：農林水産省「平成25年生産農業所得統計」

主要農産物の産出額と構成比 (H25)

(単位: 億円, %)

肉用牛			豚			鶏卵			ブロイラー		
都道府県	産出額	構成比	都道府県	産出額	構成比	都道府県	産出額	構成比	都道府県	産出額	構成比
合計	5,587	-	合計	5,793	-	合計	4,765	-	合計	3,006	-
1 鹿児島	880	15.8	1 鹿児島	695	12.0	1 茨 城	402	8.4	1 宮 崎	592	19.7
2 北海道	814	14.6	2 宮 崎	468	8.1	2 千 葉	326	6.8	2 鹿児島	539	17.9
3 宮 崎	527	9.4	3 千 葉	407	7.0	3 鹿児島	266	5.6	3 岩 手	497	16.5
4 熊 本	326	5.8	4 茨 城	375	6.5	4 広 島	239	5.0	4 青 森	187	6.2
5 宮 城	202	3.6	5 北海道	369	6.4	5 岡 山	227	4.8	5 北海道	138	4.6

米			野菜			花き			工芸作物		
都道府県	産出額	構成比	都道府県	産出額	構成比	都道府県	産出額	構成比	都道府県	産出額	構成比
合計	17,864	-	合計	22,533	-	合計	3,485	-	合計	1,849	-
1 新 潟	1,499	8.4	1 北海道	1,990	8.8	1 愛 知	571	16.4	1 北海道	366	19.8
2 北海道	1,301	7.3	2 茨 城	1,767	7.8	2 千 葉	189	5.4	2 鹿児島	292	15.8
3 秋 田	1,012	5.7	3 千 葉	1,687	7.5	3 福 岡	184	5.3	3 静 岡	243	13.1
4 茨 城	875	4.9	4 熊 本	1,172	5.2	4 静 岡	172	4.9	4 沖 縄	192	10.4
5 山 形	867	4.9	5 愛 知	1,102	4.9	5 埼 玉	172	4.9	5 熊 本	115	6.2
29 鹿児島	241	1.3	15 鹿児島	496	2.2	8 鹿児島	123	3.5			

※工芸作物：サトウキビ、茶など

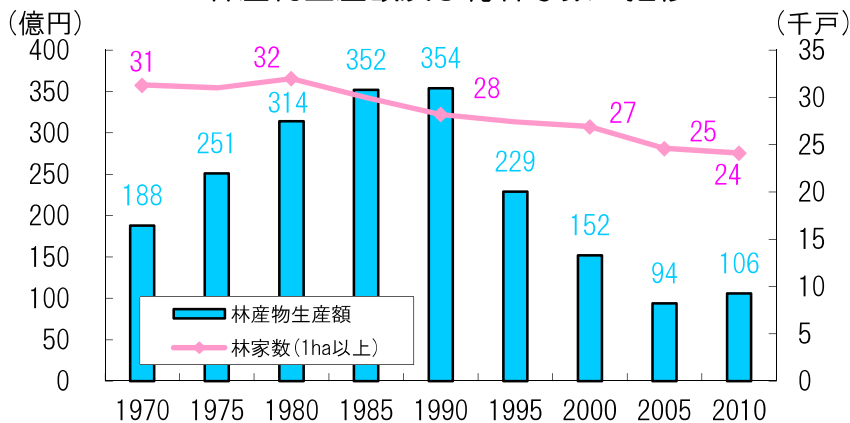
資料：農林水産省「平成25年生産農業所得統計」

(2) 林業

- ・林産物生産額は1990年をピークに減少していたが、2005年以降、わずかに増加しており、2010年は約106億円※
- ・総林家数は減少傾向にあり、2010年は24,107戸（全国第14位）
- ・主要林産物では、竹材、しきみ、さかきが全国第1位、たけのこが全国第2位の生産量

※本県独自調査を含む。なお、国の統計調査では約70億円（全国第19位）

林産物生産額及び総林家数の推移



※総林家数は2005年より5年おきに公表

資料：農林水産省「農林業センサス」、県環境林務部「県森林・林業統計（H26）」

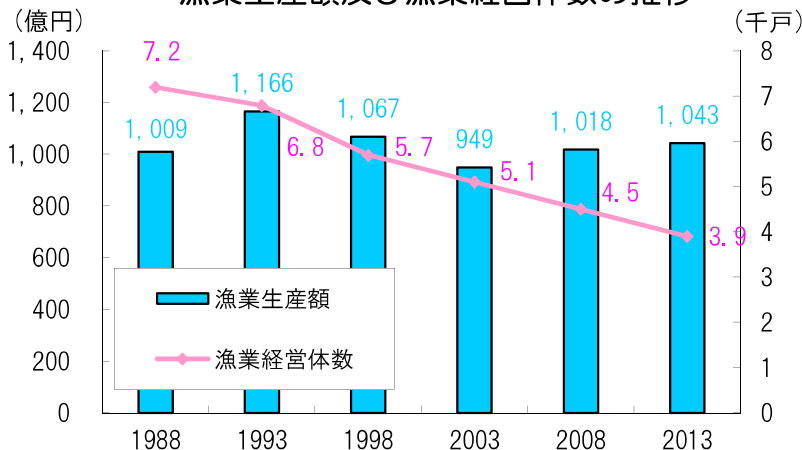
主要林産物等の地位(平成25年)

- ・素材生産量
700千m³（全国第8位）
- ・竹材
698千束（全国第1位）
- ・しきみ
541 t（全国第1位）
- ・さかき
280 t（全国第1位）
- ・たけのこ
5,270 t（全国第2位）

(3) 水産業

- ・漁業生産額（海面・内水面の漁業・養殖業の合計）は概ね1,000億円前後で推移しており、2013年は約1,043億円であった
- ・漁業経営体数（海面・内水面の合計）は減少傾向にあり、2013年は3,882戸
- ・主要水産物等では、養殖ブリ、養殖カンパチ、養殖うなぎの生産量、養殖クロマグロの出荷量及びカツオ節生産量が全国第1位

漁業生産額及び漁業経営体数の推移



※経営体数は5年おきに公表

資料：農林水産省「漁業センサス」、 「農林水産統計年報」、県水産振興課調査

主要水産物等の地位

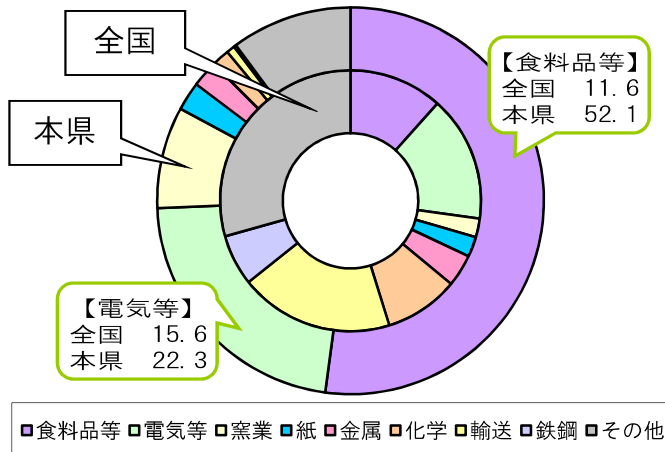
- ・養殖ブリ
28,366 t（全国第1位）
- ・養殖カンパチ
20,663 t（全国第1位）
- ・養殖うなぎ
5,747 t（全国第1位）
- ・養殖クロマグロ
3,222 t（全国第1位）
- ・カツオ節生産量
24,670 t（全国第1位）

※漁業センサスは1963年より5年間隔で実施
※県は1989年以降、内水面に関する数値を合計

(4) 製造業

- ・ 本県の製造業は、全国と比較し、食品製造業の比率が高い
また、電子関連産業などの先端技術型産業の立地も進んでいる
- ・ 本県の特産品においては、近年、焼酎の出荷額は大きく増えたが、大島紬や粗糖は減少傾向

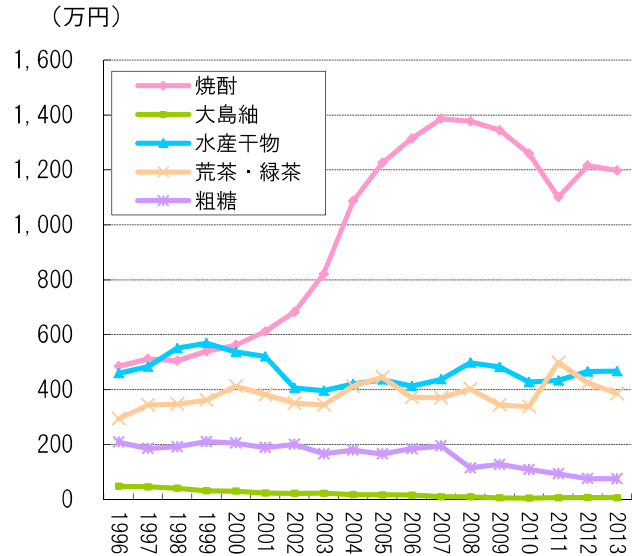
製造業出荷額等の産業別構成比



※食料品等には、飲料・飼料・たばこを含む
※電気等には、電子部品・デバイス等を含む

資料：経済産業省「工業統計（H24.1）」
県企画部「鹿児島島の工業（H24.5）」

県特産品出荷額の推移

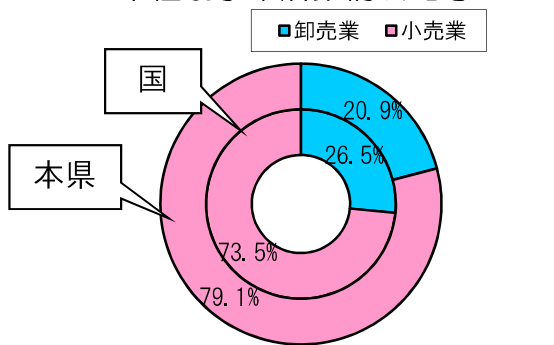


資料：県企画部「平成25年工業統計調査」

(5) 商業

- ・ 本県の事業所は、全国に比べ一事業所当たりの販売額が低く、一般的に規模が小さい。

業種別事業所数構成比等

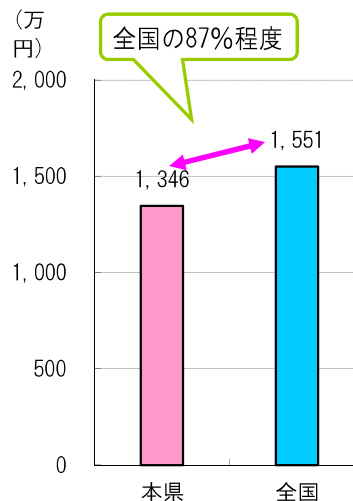


(単位：人、億円)

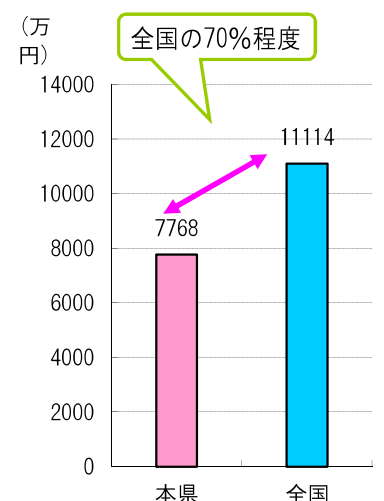
	小売業	卸売業
事業所数	17,497	4,627
従業員数	100,959	35,735
年間商品販売額	13,592	21,735

※小売業は、飲食店を除く

小売業一人当たり販売額



一事業所当たり販売額

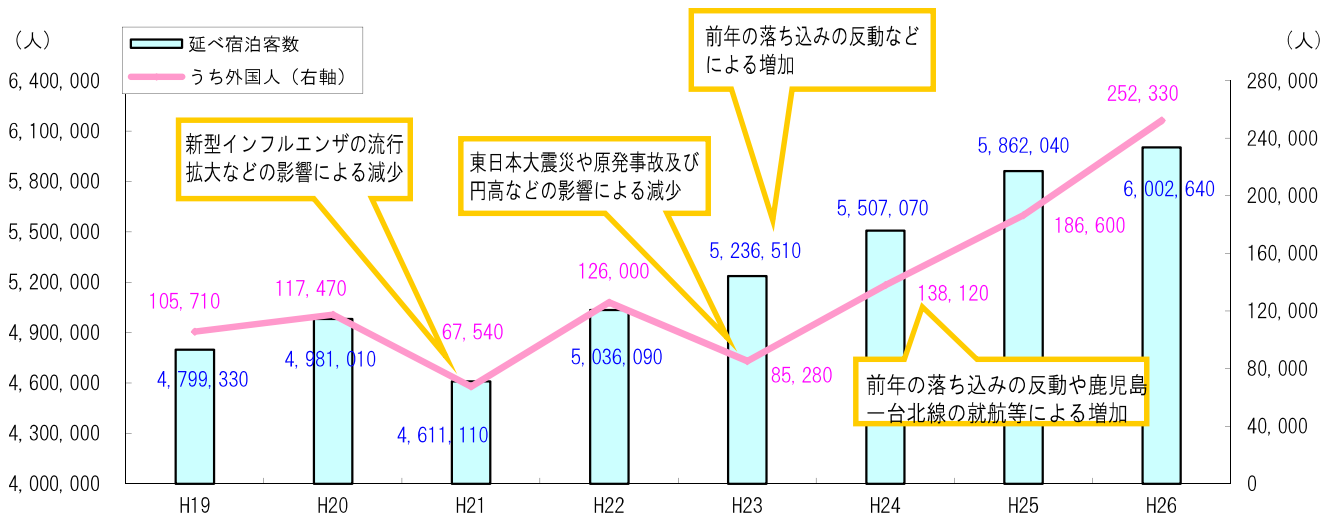


資料：総務省・経済産業省「平成24年経済センサス」

(6) 観光

- ・ 宿泊観光客は、九州新幹線の全線開業効果等により増加
うち外国人宿泊観光客は、平成23年に東日本大震災等の影響により減少したが、その後は台北線や香港線の就航など国際航空路線の拡充により増加
- ・ 本県を訪れる外国人観光客は、台湾、韓国からの割合が高い

宿泊観光客の動向



注) 対象施設：全宿泊施設のうち、従業員10名以上のホテル・旅館・簡易宿泊所

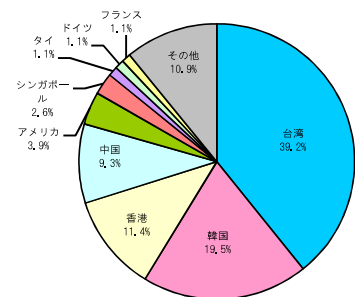
資料：観光庁「宿泊旅行統計 (H27.6)」

国籍別外国人延べ宿泊者数の推移

	H22	H23	H24	H25	H26
韓国	60,620	35,520	45,370	44,910	48,930
中国	8,220	6,890	10,820	11,880	23,250
香港	4,930	4,900	9,920	11,810	28,660
台湾	21,670	14,630	45,240	75,470	98,400
シンガポール	2,860	1,750	3,230	4,750	6,420
アメリカ	7,360	4,070	6,170	8,760	9,710
その他	20,340	17,520	17,370	29,020	36,960
合計	126,000	85,280	138,120	186,600	252,330

資料：観光庁「宿泊旅行統計」

【平成26年の構成比】



【参考：全国の場合】

- 日本全国：42,073千人
- 1位：台湾：7,937千人(18.9%)
- 2位：中国：7,796千人(18.5%)
- 3位：韓国：4,339千人(10.3%)
- 4位：米国：3,190千人(7.6%)
- 5位：香港：3,182千人(7.6%)

資料：観光庁「宿泊旅行統計 (H27.6)」